

## タイトル：漫画政策により構築された文化都市 (富川市の事例を中心に)

ペク・ジョンフン

第5代富川市議員

カトリック大学

コンテンツ事業科文化政策研究所首席研究員

韓国漫画映像振興院専門委員

### 1. 韓国における地方自治制度と都市文化政策

2011年は韓国の地方自治制度施行から20周年<sup>1)</sup>を迎える年である。地方自治制度は、市民の「草の根民主主義」認識の向上と、地元の問題により積極的に関わる市民参与主権の時代を切り開いた。国において比較的遅れ気味の首都圏以外の地方都市に発展につながる絶好の機会を与え、地方分権化に伴う国家均衡発展に望ましい環境づくりがなされている。

市民による直接選挙で自治体長や地方議員が選ばれ、そして選ばれた彼らは任期内に次期選挙当選に向けて地域区の有権者に治績がアピールできるような様々な事業に手を出すといったことが起きることもある。これは展示行政の沼にはまっていくという悪循環の始まりである。結局、市民がその被害を受けるという残念な結果に終わる。

実際、韓国はお祭り共和国だとメディアに連日叩かれたこともある。当時の行政安全部の資料によれば、2009年現在、全国で937件のフェスティバルが開催されており、そのうち78%の728件が地方自治開始以降始まったという。地域別に見るとソウルが119件と最も多く、次に京畿道115件、慶尚南道112件、江原道105件の順となっている。フェスティバルの主管機関は、広域市・道58ヶ所、市・群・区562ヶ所、民間317ヶ所だ。自治体がフェスティバルに費やした予算は京畿道が514億ウォンと一番多く、広州422億ウォン、ソウル400億ウォン、慶尚南道359億ウォンなど総額3275億ウォンとなった。<sup>2)</sup>

行政安全部がむやみに増え続ける地域フェスティバルのまとめ作業をする上で、不要で無駄の多いフェスティバルを見直す自治体にはインセンティブを与えたが、あまりその成果はなかった。

自治体が都市文化政策を競うように行う理由は、文化芸術施設やサービス、各種文化関連プロ

<sup>1)</sup> 本論では1991年任命制団体長体制の下形だけで復活した1991年を基準とした。韓国の地方自治制は1949年地方自治法が定められた後、南北内戦<sup>朝鮮戦争</sup>中だった1952年、市・邑・面の議會議員選挙[4.25]と市・道議員選挙[5.10]を実施することで施行された。1956年市・邑・面長選挙[8.8]が実施され基礎自治団体の民選団体長体制がスタートした。その後4.19革命によりイ・スンマン政権が崩壊、1960年チャン・ミョン内閣が市長・都知事選挙[12.29]を行い名実共に地方自治制が始まった。しかし、1961年5.16軍事クーデターにより執権を握ったパク・チョンヒ政権が地方自治制を全面中断することで、以後30年間地方自治なしの中央集権時代となった。1991年区市郡議会選挙[3.26]と市道議會議員選挙[6.20]が行われてから地方自治が復活した。しかし、1991年復活した地方自治制は「任命制団体長体制」のもとにあったため、名ばかりのものだった。その後1995年4大地方選挙が同時に実施[6.27]され、韓国の地方自治は新しい局面を迎えた。〈出典: ネイバー知識辞典〉

<sup>2)</sup> 行政安全部 国会国政監査報告資料, 2009

グラムを通して、市民に多様な文化と触れる機会を提供し、都市ブランド認識及びイメージアップ、文化発展、観光資源開発、不動産景気上昇、外部投資誘致、所得上昇、雇用創出などの効果が期待できるためである。<sup>3)</sup>

しかし、フェスティバルのような都市文化政策が本来の目的から外れ、政治家の次期選挙勝利に向けての魅力ある展示イベントとして利用されているのは心休まらない現実でもある。

このようにして企画される地域フェスティバルのほとんどが、地元の特産物や象徴物などが揃った固有のタイトルと内容を盛り込んだもののように見えるが、実際は何処も似たりよったりのプログラムと毎年変わらない食べ物を中心に行われている展示会であり、そのため観光客はもちろん地元の人さえからもそっぽを向かれている。

ところがメディアや市民団体などによる疑いの視線を気にせず、文化特別市であることを内外に対して公表し、富川国際漫画祭を14回、富川国際ファンタスティック映画祭を15回、国際学生アニメーションフェスティバルを13回、ボクサコル芸術祭を27回、富川フィルハーモニーオーケストラ定期演奏会を160回開催するなど、大胆にその意思を貫いたのがまさにここ文化特別市富川、漫画都市富川である。

富川がこのように文化特別市となれた秘訣は、他の地方自治団体とは異なり、当初から富川のビジョンを文化特別市として明確に定義し、政権が変わっても文化特別市富川というビジョンに関しては積極的且つ継続的な投資と、様々な都市文化政策を競争的に開発し実施してきたところにある。

何事も困難を乗り越えて努力しつづけると必ず実を結ぶというが、まさに我が富川市が文化特別市富川と胸を張って言えるのも、並々ならぬ努力の結だろう。

実際そのような努力が必要でもあった。1973年7月1日、富川が市に昇格し、近代化が進む中ソウルから流れてくる人口が急増した。これにより自然とベッドタウンになり、衛星都市ならではの人口過密地域としてその姿を変えた。80年代後半以降、不動産価格上昇と中央政府の第1次と第2次の中長期産業計画の変更により中小零細企業が近郊の首都圏公団に移転しはじめ、仕事が減り、地域産業は次第に傾き始めた。<sup>4)</sup>

1995年、全面的な地方自治制度の実施により各広域市道及び各市郡区は地方財政の安定した運営という難題に直面することになる。高速圧縮成長の後遺症がもたらした韓国社会の不具合な環境のなか、富川市は富川警察署による性的拷問事件、富川税金横領事件などでマイナスイメージを抱えてしまう。

これらに対する克服の方案として、また都市ブランドのイメージ活性化のため、都市文化政策が登場するわけである。<sup>5)</sup>

## 2. 漫画都市富川の始まり

民選市長第1期の時、映像文化都市計画を樹立、市民や漫画家の意見を聞き、1988年に漫画文化都市富川企画案を作成した。

その企画案のもと、富川漫画産業振興財団を設立し、漫画企画事業・情報管理事業・人材教育事業・特殊映像事業を目指すものとした。その間、韓国漫画家協会、ウリ漫画連帯などの作家団

<sup>3)</sup> Snedof harold R., "Cultural Facilities in Mixed-Use Development", The Urban LAND Institute, 1990

<sup>4)</sup> ユ・ウノク、「漫画フェスティバルを利用した都市活性化方案研究：BICOFの事例を中心に」カトリック大学修士論文、2010

<sup>5)</sup> キム・スドン、「地方の文化産業開拓過程に対する少考：富川市の漫画産業育成過程と成果を中心に」、地方文化政策研究、2006、pp. 37～50

体とアニメーション制作者協会、漫画アニメーション学会など関連団体とのネットワーク作りや漫画界の要望及び富川地元の環境における要求など、様々な事柄を盛り込んだ企画案が作成されていた。

このような過程は富川の漫画文化インフラ・ストラクチャーを構築するためであった。富川市はこれらをもとに**1988年**富川漫画情報センターを設立し、**第1回**富川国際漫画祭を開催した。<sup>6)</sup>

**2000年**に入り漫画閲覧機能を備えた漫画図書館を開き、そして漫画奎章閣をオンライン上で開始することで漫画資料及び知識情報管理システムを構築した。**2001年**韓国初の漫画博物館「韓国漫画博物館」を設立し、漫画資料の収集及び管理、企画展示をはじめ、様々な教育や体験プログラムを行うことで、富川を漫画の中心地に位置づけた。**2002年**は作家及び漫画産業関連企業を誘致するため、富川漫画産業総合支援センターを開設、創作支援室を運営し始めた。

富川市は韓国で初めて漫画産業発展計画を樹立し、漫画産業のインフラ・ストラクチャーを段階的に造成しているという点で、韓国産業の発展において重要な位置を占める。<sup>7)</sup>

さらに韓国初の漫画関連部署である漫画産業チームを運営しており、**2005年**からは韓国漫画映像振興院(旧富川漫画情報センター)が約**60億**ウォンの市からの補助を受け国都費、自費などを合わせて年間計**100億**ウォン規模の予算で運営されている。

### 3. 漫画都市富川の成長

#### 文化産業振興施設指定

**2008年**韓国漫画映像振興院は「文化産業振興地区」として選定され、その後**2011年8月**に「文化産業振興施設」として最終指定が決まった。

文化産業振興施設は、文化産業関連事業者や支援施設などを集団誘致し、文化産業関連事業者の活動を支援するための施設として文化産業振興基本法第**21**条第**1**項の規定により指定された施設物のことである。

振興院が文化産業振興施設に指定されることで振興院施設の運営予算の全額又は一部を中央政府から援助してもらうチャンスを掴んだ。また、「ベンチャー企業育成に関する特別措置法」第**18**条によるベンチャー企業集積施設に指定され、一部支援補助を受けることもできた。今回の振興施設指定により、年間約**60億**を富川市が全負担するはずだったものが、中央政府や広域団体からの支援と参加で賄えることも期待できるようになった。市の莫大な財政負担という難題から解放された韓国漫画映像振興院は、韓国漫画の価値向上と富川市民の文化共有機会提供という、一石二鳥の効果が得られたと評価している。特に、富川市を中心に活動している約**400**人の漫画創作人材を**1,000**人まで引き上げ、漫画コンテンツの生産基地化を図り、文化体育観光部と京畿道が共に進めているデジタル漫画流通支援プラットフォーム構築事業にさらに力を注ぎ、世界の漫画が我々のプラットフォームを舞台に流通するというグローバル流通拠点化の計画がさらに一歩前に進んだことにその意義があると言えよう。<sup>8)</sup>

#### 漫画ウォールアートが施された道路

京畿道富川の代表的な道路であるソウルと仁川を結ぶ京仁路の工具商店街が漫画イメージによる漫画ウォールアート街としてリニューアルされた。過去、京仁路工具商店街は老朽化した建物

<sup>6)</sup> イム・ハクスン, 当社した都市活性化政策: 富川市の事例を中心に**3**, 漫画と文化産業そして都市, **2007**, pp. 271

<sup>7)</sup> 同上, pp. 273

<sup>8)</sup> ジョン・イリョン 「韓国漫画映像振興院、文化産業振興施設指定」、ニューシス、**2011.8.11**

が立ち並んでいて、休日は閉店した店の古くなったシャッターが露になり、都市のイメージを悪くする主な原因という声があった。これに対し富川市は老朽化した工具商店街のイメージ改善を図るため、色あせたシャッターを利用した漫画ストリート造りに向けて、ウォールアート事業推進TFチームを即結成した。そして韓国漫画映像振興院と共同開発の漫画キャラクターとモダンデザイン、詩と風景を基本コンセプトにデザインを考え、2段階に分けて推進する計画を立てた。既に第1段階は終わり、ソウルから仁川方面への283m地点にある69店舗のシャッターに漫画キャラクターと風景画など69点のウォールアートが完成した。休日ここを通る人々は、以前の古い街のイメージから一新した愉快で想像力あふれる漫画シャッター展示街を楽しめる文化都市ならではの魅力を感じることができる。<sup>9)</sup>

### ホ・ヨンマン画伯の肉筆原稿保管

富川の韓国漫画映像振興院は韓国博物館収蔵庫にホ・ヨンマン画伯から寄託を受けた「タッチャ」、「食客」、「オ-! 漢江」、「カクシタル」、「コル」など人気漫画の肉筆原稿約15万枚を保管している。これらは1974年デビュー以来最近まで出してきたほとんどの作品であり、学術的・歴史的・経済的価値はもちろん、富川市で保管しているという事実だけでも漫画都市富川の位置を国内外に改めて知ってもらうきっかけになったと考えられる。富川市民にも公開し、他都市では経験できない文化体験機会を与えることで市民の地元に対する愛やプライドの向上を図ると共に、都市ブランドのイメージアップにもつながるだろう。さらに、富川はホ・ヨンマン画伯のアトリエ招致に向け様々な研究を続けており、韓国を代表する漫画都市としての位置を固めていこうと努力している。<sup>10)</sup>

### 市庁に設けられた漫画カフェ

市庁の1階ロビーに人気漫画キャラクターのドゥルリと写真が撮れるフォトゾーンや漫画カフェを設けてある。庁舎の固いイメージを捨て、漫画都市富川としてのアイデンティティを惜しみなく発揮している。34.3㎡のこじんまりとしたスペースにおよそ1千500冊の韓国の有名漫画家の漫画が揃っており、漫画都市富川を象徴しているかのようなのである。漫画カフェを訪れる人の数も一日約200人におよび、漫画の底辺拡大に貢献していると言える。何よりも漫画都市富川の中核部、市庁のど真ん中に漫画カフェを置いたというのは富川市役人の漫画に対する並々な愛情を垣間見ることのできる一面と言えよう。<sup>11)</sup>

### 漫画キャラクターバス運行

市庁所属の公用バス6台を富川韓国漫画映像振興院ビジネスセンターに入居している会社が制作した人気漫画キャラクターを用いラッピングバスに変え運行している。動く漫画展示場となり、都市のあらゆる場所に現れ人々に楽しく元気あふれる漫画都市のイメージを感じてもらえることができる。<sup>12)</sup>

## 2011富川国際漫画祭、大成功を収める

<sup>9)</sup> ジョン・イリョン「富川京仁道路ソサム通り漫画ウォールアートで一新」、ニューシス、2011.5.1

<sup>10)</sup> ジュ・ジン「ホ・ヨンマン画伯、肉筆原稿韓国漫画映像振興院に寄贈」、アジアトゥデイ、2011.4.21

<sup>11)</sup> イ・ジェギョ「ロビーお色直し...固い庁舎イメージ払拭」、京仁日報、2011.3.16

<sup>12)</sup> ジョン・イリョン「富川市漫画キャラクターバスで文化特別市をアピール」、ニューシス、2011.3.10

今年で14回目となった富川国際漫画祭は開催前から本格的に活性化し始めた韓国漫画博物館を拠点として開催されるという点、より専門的なイベントプログラムの準備と運営のため初めてイベント企画会社に委託するという点などから、多くの期待と関心の中スタートした。

その結果、展示分野においては、参加し体験できる展示「21世紀デジタル展示」により漫画展示のパラダイムを変えたと評価され、マーケット分野においてはフェア機能の強化により、産業展としての充実が図られ、グローバル漫画ビジネス中心地区が構築されたという評価をもらった。また、世界初の「世界子供漫画家大会」を開催し、世界中のこどもの童心を一つにし、富川を「子供漫画UN本部」としてポジショニングするという成果も収めた。漫画祭を通して市民・愛好家・漫画家の積極的な参加とコミュニケーションの場となり、来場者及びイベントスタッフを合わせ8万人という驚異的な動員を記録した。<sup>13)</sup>

項目	2011年(A)	2010年(B)	増減(A-B)
開幕式参加者	約2,500人	700人	<b>1,800名↑, 257% 増</b>
来場者及びイベント関係者	約8万人	72,772人	中国観光客、 家族ぐるみの 来場者増加
韓国国内企業及び作家ブース数	計76 (企業53社/ 作家23名)	計38 (企業30社/ 作家8名)	<b>38↑, 100%増</b>
海外バイヤー及び作家数	15ヶ国52名	21ヶ国155名	2010年国際漫マンガサ ミットと 同時開催
(投資契約・商談額)	67億8千万ウォン	22億ウォン	<b>208%増</b>

<表1 - フェスティバル結果表><sup>14)</sup>

#### 4. 漫画都市富川の未来

漫画都市富川の未来をさらに発展させるためには、いくつか克服すべき課題がある。

まず、韓国漫画映像振興院の安定した財源確保である。韓国漫画の価値拡大が課題である振興院にとって、基礎地方自治団体の富川市が総予算の半分を越える額を引き続き支援するには明らかに限界がある。富川市が韓国の漫画を担っていくという言葉には富川市民を納得させるに十分な裏づけが無い。結局、中央政府からの安定的な予算支援と経営合理化を図った充実した経営管理により、自己負担率を高める方法が優先的に考慮される必要がある。韓国の漫画中心基地が、どうして富川の韓国漫画映像振興院でなければならないのかについての十分な論理的根拠を述べられるよう研究が必要であり、公共機関の多少荒い運営の可能性もあるため、より戦略的な経営

<sup>13)</sup> 「BICOF 結果分析報道資料」、韓国漫画映像振興院、2011.8

<sup>14)</sup> 「BICOF 結果分析報道資料」、韓国漫画映像振興院、2011.8

目標を立て収益源を積極的に発掘、効率的な経営で富川市の予算負担率を漸進的に減らす努力が求められる。もちろん、企業の社会的責任が重視される社会的雰囲気を考え、振興院もまた積極的に企業と接触し、スポンサーになってもらえるよう努力する時間を持つべきだ。

次に、市民の積極的な支持である。漫画都市富川の政策決定過程において市民の積極的な参加が求められる。いくら素晴らしい政策であっても、市民の支持が得られなければ予算の無駄遣いに終わってしまうからだ。漫画にかかわる政策決定に市民に思いっきり参加してもらい、市民の目線で楽しめる生活密着型の漫画政策を進めるべきだ。このような市民参加は、より積極的な関心と支援を可能にするだろう。市民自らが参加できる様々な漫画をテーマにしたイベントの開催や、日常生活のなかで漫画文化を楽しめるようあらゆる施策に細心の配慮をすべきだ。市が運営する中央図書館及び各地域の図書館や生活に密着している小規模図書館などでも漫画関連特別プログラムを運営するなど、より多くの漫画本を所蔵し日常生活の中で漫画を楽しめる機会を広く提供していく必要がある。

最後に、富川国際漫画祭の国際イベントとしての承認である。政府から国際イベントとして承認をもらうには、企画財政部「国際行事審議委員会」を通らなければならない。資格条件は、5ヶ国以上の国から100名以上の外国人が参加し、10億ウォン以上の国費支援を求めるイベントである必要がある。政府から国際イベントとして承認されると、政府の行政・財政的支援はもちろん、韓国で唯一の国際漫画イベントとなるだろう。その実現に向けて、他自治体における国際イベント承認過程をベンチマーキングし、国際イベントにふさわしいプログラム運営などに対する研究を進め、国際イベント承認準備に万全を期する必要があると考える。

## 参考文献

- キム・スンドン、「地方の文化産業開拓過程に対する少考：富川市の漫画産業育成過程と成果を中心に」、地方文化政策研究、2006、pp.37～50
- 文化体育観光部、韓国コンテンツ振興院、「2010漫画産業白書」、2010
- ユ・ウノク、「漫画イベントを利用した都市活性化方案研究：BICOFの事例を中心に」カトリック大学修士論文、2010
- イム・ハクスン、「漫画を利用した都市活性化政策：富川市の事例を中心に」、漫画と文化産業そして都市、2007、pp. 271～273
- イム・ハクスン、「創意的文化社会と文化政策」、2003
- フェスティバル事務局、「BICOF結果分析報道資料」、韓国漫画映像振興院、2011.8
- 行政安全部国会国政監査報告資料、2009
- イ・ジェギョ「ロビーお色直し...固い庁舎イメージを払拭」、京仁日報、2011.3.16
- ジョン・イリョン「富川京仁路ソサム通り漫画ウォールアートで一新」、ニューシス、2011.5.1
- ジョン・イリョン「韓国漫画映像振興院、文化産業振興施設指定」、ニューシス、2011.8.11
- ジョン・イリョン「富川市漫画キャラクターバスで文化特別市をアピール」、ニューシス、2011.3.10
- ジュ・ジン「ホ・ヨンマン画伯、肉筆原稿 韓国漫画映像振興院に寄贈」、アジアトゥデイ、2011.4.21
- Bianchini F and Parkinson Med, "Cultural Policy and Urban Regeneration : The West European Experience", Manchester University Press,1993
- Chock, H. E. and Schooner, J. D," The Evolution of a Festival: Creole Christmas in New Orleans, The Center for South Australian Economic Studies", Tourism Management, 14(6), pp.475-482,1993
- Snedof Harold R., "Cultural Facilities in Mixed-Use Development", The Urban LAND Institute,

1990